

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4791700018
法人名	有限会社介護センターかな
事業所名	グループホーム虹の家
所在地	〒904-1304 沖縄県国頭郡宜野座村字漢那1953-1 (電話) 098-968-3933
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(H20年 6月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 5月 11日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート造り 1階建ての 階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(6月29日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88歳	最低	73歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北部病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは主要道路よりやや奥まった小高い丘の周囲を緑に囲まれた静かな環境の中にある。家族や近隣住民からの季節の野菜の差し入れや来訪も多い。月水金の朝の近隣の小学校・幼稚園への挨拶、交通安全見守りや自治会・老人会等の地域活動に積極的に参加している。毎朝の体操や歌いながら利用者と職員のスキンシップ等による笑いの絶えない明るいホームである。管理者をはじめ職員の思いは熱く、あせらず、ゆっくり利用者についた理念、方針で共に支え、支えられている関係を大切にしている。開所1年目であるが、今後共利用者本位のケアを期待したい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価となる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価にあたっては、全ての自己評価項目内容を職員に伝え、夜勤時に見てもらい、その後、管理者が職員より聞き取りをしてまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホーム内だけではなく、利用者や家族も食事会を兼ねて、ドライブインで会議を開催することもある。2か月に1回定期的に開催され、当初は委員会での「認知症」の共通理解を深める為、勉強会から始めた。近隣の小学校での挨拶等に通じ、利用者の生きがいや役割に結びつける為に教育委員会も交えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>スナップ写真を多めに入れた「にじのいえ」便りを2か月に1回発行している。家族等の来訪時や外泊時・行事参加時には、利用者の居室や居間のソファに腰かけて、利用者の状況を報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>家族や近隣住民からの差し入れや、近くの小学校へ週3回の朝の挨拶参加等、地域との交流記録がある。また、利用者の出身区への敬老会、運動会へ積極的に参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも地域で馴染みの関係が保たれるよう支援する。」という理念を掲げ、近くの小学校との交流や区の行事への参加等、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。理念は、家族や見学者の目に触れやすい事業所の共有スペースに掲示し、パンフレットにも記載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が職員の採用時には、時間をかけて、必ず理念を伝えている。また、管理者と職員のミーティング時に理念を確認し合い、職員間での意識付けや日々のサービス提供時に取り組んでいる。利用者の意に添うよう心がけ、朝の挨拶や区の行事参加等地域との交流の場を多く設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民からの畑で取れた季節の野菜の差し入れや、近くの小学校への週3回の朝の挨拶参加等をしている。また、利用者の出身区の敬老会、運動会へ、職員・家族・本人と積極的に参加している。	○	今夏より区や小学校の運動会へ事業所のテントを設置し、家族にも呼びかけ、利用者と一緒に参加を予定している。今後も当事業所の地域との馴染みの関係が保たれるよう積極的に深めるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価にあたっては、全ての自己評価項目内容を職員に伝え、夜勤時に見てもらい、その後、管理者が職員より聞き取りをしてまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内だけではなく、利用者や家族も食事会を兼ねて、ドライブインで会合を開催することもある。2か月に1回定期的に開催され、当初は委員会での「認知症」の共通理解を深める為、勉強会から始めた。近隣の小学校での挨拶等に通じ、利用者の生きがいや役割に結びつけており、教育委員会も交えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や地域包括支援センターから小規模多機能に関する情報収集を行っている。事業所が参加した研修会の報告や意見交換会をお互いの役場、事業所で行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	スナップ写真を多めに入れて「にじのいえ」便りを2か月に1回発行している。家族等の来訪時や外泊時・行事参加時には、利用者の居室や居間のソファにかけて、利用者の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所の入り口に意見箱を設置しているが、これまでに投書はみられない。家族が来訪する時には、必ず声かけを行ない、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに職員の退職は1名見られた。利用者や家族から尋ねられた場合利用者との関わりの頻度等を考慮し、口頭で伝えている。現在のところ退職による直接的な影響は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設で開催される内部研修会や県が主催する外部研修会には、管理者や職員が交代で参加、受講できるようにしている。事業所独自の研修会には、「薬について」専門の業者を講師に招いて実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の宅老会協会へは加入しているが、沖縄県グループホーム連絡協議会にはまだ加入していない。関連施設の同業者とは、介護に関する意見交換会や交流の場を設定している。また、同業者見学会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談後、家族と本人と一緒に見学し、2日～3日の体験入所を実施している。その際は、管理者が24時間対応し、徐々に馴染みながら、利用者との人間関係を築きながら、本格的な利用に移っていきけるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	元ベテラン主婦の利用者の方から、季節の野菜や豚肉を使った郷土料理の調理方法を教えてもらったり、味見してもらったりしている。また、食事後のお茶の時間は、居間や食卓にて昔の職業や趣味の話の聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の感情を大切に、日々の利用者との関わりの内容を記録としてしっかりまとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月に1回サービス担当者会議を開催している。家族が欠席の場合は、面会時や電話にてその内容を伝えている。	○	管理者と計画作成者が兼務しているため、アセスメント(情報収集)を実施するための時間の確保が困難である。家族との話し合いの場での意見やアイデアが介護計画にしっかり反映できることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議は定期的実施されているが、介護計画の見直しの期間が定まっていない。	○	職員が記録する利用者の状態変化や状況等の情報を確認し、家族、本人の要望に応じて介護計画を3か月に1回は検討見直しを継続的に実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診において、家族が対応できない場合は、情報用紙を準備し、通院介助時にホームの職員から主治医へ情報提供を行っている。訪問診療は、必要な利用者に対して2週間に1回実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力病院の北部病院が主治医となっている。夜間受診に関しては、近隣に夜間対応機関がない為、初回面談にて家族からの要望・希望をきちんと確認して、救急外来可能機関への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは心の準備を含めて、普段から話し合いを行っている。事業所としては、ありのままを送りたいと家族・職員との意思確認や共有はできているが、具体的な文書としては作成していない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、事務所内でキャビネットに置いている。男性職員がいないので、同性介護ではない。プライドを傷つけないよう、入浴時は車椅子対応以外の利用者は1対1での実施を行なう等、日々の関わりを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後に居間にて職員は、見守りや声かけを行いながら、利用者が興味のある、ぬり絵や計算ドリル、手芸を一緒に行っている。また、横になりたい利用者は、居室に戻り、それぞれの時間を過ごしている。読書好きな利用者へは事業所の奥にテーブルセットを置き、いつでも読書ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の住民や家族の差し入れ、買い物してきた食材の下準備を利用者と一緒に行っている。利用者全員が食卓についていた場合は食卓が狭い為、職員は利用者とは別の時間帯に個人弁当持参か事業所の食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽がなくシャワー浴である。月水金と曜日を決めているが、利用者の状況(毎日の希望や汗や排泄物で汚れた場合等)に柔軟に対応している。入浴は一人ひとり実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月水金週3回の小学校への朝の挨拶を行なっている。参加する利用者の中には、曜日を気にするようになり、本人の意欲や生きがいがいいにつながるよう、利用者の能力や過去の生活歴を参考にしながら、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	未来宜野座で野菜の買い出しをしたり、夕方散歩に出かけたり、事業所の庭に出て、草花を眺めたりしている。一人を除く他の利用者が地元出身のため、村内巡りに案内してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、夜間のみ掛ける。また、居室には鍵が備え付けていない。玄関横が事務所になっており、利用者が外にでそうな場合は、声かけや職員が一緒について行ったり、歩行や車等の安全面に配慮しながら様子を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練、避難経路の確認、消火器の取扱い等災害対策に向けた訓練を実施している。夜間を含めて地域の協力体制は、自治体を中心に区民全員に放送で連絡が行き届くようになっている。また連絡網や連絡方法は職員が見やすい場所に貼っている。緊急電話設置は検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量をチェックしている。200ccペットボトルに利用者の名前を書いて1日の水分量を、目安としている。また、日常的にいつでも飲めるようお茶は、カウンターに常備している。体重測定は1か月に1回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、利用者や家族とのスナップ写真や利用者の作品が飾り付けられている。大きな窓からは、光が差し込んで、居間や居室は明るい。休憩時には、それぞれのお気に入りの椅子にかけて、利用者同士や職員とおしゃべりを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に埋め込み式の大きなクローゼットが整備され、ベットは、事業所で準備している。壁には本人や家族の写真、塗り絵等が飾られ、私物の時計やカレンダーも置かれている。日中、西日が差し込む居室は、その時には必ずカーテンを閉めている。	○	ここ2~3ヶ月、脱水の生じやすい夏日が続く為、西日の差し込む居室にすだれや日さしを早急に対応してほしい。管理者は設置予定である。